

## 会 議 議 事 録

1 会議名	平成30年度 第2回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	平成30年10月22日（月曜日） 午後3時から午後5時まで
3 開催場所	さいわいプラザ 3階 中ホール
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>兒玉優子委員長、山川千恵子副委員長、池田浩委員、 櫻井真理委員、桃生鎮雄委員、竹樋さちえ委員、 宮下あさみ委員、長谷川恭平委員、渡辺美子委員、 榎園早苗委員、赤川美穂委員、成田涼委員、田邊香織委員、 高橋美幸委員、横澤勝之委員、河内沙苗委員、早川明日香委員、 山岸麻実委員</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>小池由佳教授（新潟県立大学）</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：波多部長 生活支援課：藤田課長 福祉課：長谷川課長 学務課：米山係長 学校教育課：江田課長補佐 子ども家庭課：大矢課長、五十嵐課長補佐、鷺頭係長、 大矢係長、小林主査、小黑主事 子ども家庭センター：木村係長 柿が丘学園：高森園長 保育課：長谷川課長補佐 青少年育成課：斎藤課長</p>
5 欠席者名	加藤仁委員、井口明彦委員
6 議題	<p>(1) 生活実態調査等の中間報告</p> <p>(2) ワーキング部会の報告</p> <p>(3) ニーズ調査の実施について</p> <p>(4) グループワーク「子どもの貧困対策の検討」</p>
7 その他	アドバイザーからのまとめ

<p>8 会議結果の概要</p>	<p>議事 (1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が資料No.1他に基づき説明した。</li> <li>・質問・意見は下記のとおり</li> </ul> <p>議事 (2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が資料No.3, 4に基づき説明した。</li> <li>・質問・意見は下記のとおり</li> </ul> <p>議事 (3) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が資料No.5に基づき説明した。</li> <li>・質問・意見はなし</li> </ul> <p>議事 (4) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもの貧困対策」をテーマに、3つのグループに分かれグループワークを行い、各グループごとにまとめた意見を発表。</li> </ul> <p>その他については下記内容のとおり</p>
<p>9 会議内容</p>	
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ (事務局)</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 生活実態調査等の中間報告 (事務局)</p> <p>下記資料について事務局が説明</p> <p>資料「長岡市子育て世帯の生活に関する調査結果 (速報版) から見えてきた課題」</p> <p>資料No.1「長岡市子育て世帯の生活に関する調査結果 (速報版) の概要」</p> <p>資料「追加資料」</p> <p>資料「長岡市子育て世帯の生活に関する調査集計報告書【速報版】」</p> <p>資料No.2「子どもナビゲーター取組内容 (中間報告)」</p> <p>(委員)</p> <p>資料No.1の8頁問23付問は、「その他」の意見が非常に多いがどういった内容があったのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>中高生の「その他」の理由としては「3年生で引退した」が多く、9～11歳の理由では「やりたい部活動が学校にない」という理由が多かった。</p> <p>(2) ワーキング部会の報告 (事務局)</p> <p>下記資料について事務局が説明</p> <p>資料No.3「平成30年度第2回子どもの貧困対策についての検討ワーキング部会報告」</p> <p>資料No.4「平成30年度長岡市の療育・相談体制の検討ワーキング部会報告」</p>	

(委員)

学校が新入生を迎えるにあたり、発達に心配があるお子さんについては、特別支援学級の担当が最終の受け入れ体制に向けた調整を保育園などを行っているが、ほとんどが業務外であり、かなり負担になっている。うまく就学までつなぐことができないものか。

(事務局)

この度、幼稚園保育園協会側から、就学に向けて学校とよく連携したいという話があった。他市では接続プログラムを作っているところもあり、市としても、保育園・幼稚園、学校、保護者などと一緒に、就学前と学校をどうつないでいくか、長岡市版の接続プログラムの検討を今後進めていきたい。

(3) ニーズ調査の実施について

(事務局)

下記資料について事務局が説明

資料No.5「子育て世帯のニーズ調査の実施について」

※質問・意見なし

(4) グループワーク「子どもの貧困対策についての検討」

【内容】

10月5日に開催した「子どもの貧困対策についての検討ワーキング部会」で部会員が検討した結果（資料No.3参照）をもとに、具体策や他に考えられる取組について、3グループに分かれて話し合った。

【各グループの発表】

○Aグループ

- ・子どもの貧困について、親と子によって認識の違いがあったり、当事者に困り感がない場合があったりするという意見や、子どもナビゲーターの役割が重要ではないかという意見もあった中で、各家庭にアウトリーチしていくことが大事だが、貧困といわれる家庭に限って、遠慮がちだったり関心がなかったりで、そこに対する近づき方が難しい状況であるという意見がでた。
- ・子ども食堂の取組をもっと広げてほしいという意見もあり、現在長岡市内に4か所あるが、そのノウハウを提供して、もっと充実した活動が広がってほしいということと、その中で、子どもが体験したことを次につなげていくことについての役割が必要ではないかという意見もあった。
- ・無料の学習の機会を広げていくことが求められると思うが、どうやって地域にその情報を伝えていくのか、またその人材確保のネットワークづくりが大事ではないかと思う。
- ・また、高等教育を受けたいが受けられない子どもたちに対しては、無償化や奨学金制度の樹立が必要ではないかという意見もあった。

○Bグループ

- せっかくナビゲーターやスクールソーシャルワーカーなど貧困に関われる人がいるが、連携が無かったり人員が足りないのではないかと。ナビゲーターは今後家庭の中に入っていくことを考えたときに、一人でできるのかということが話題になり、子どもへの学習支援などについても、どうしても人手が必要になってくるため、まちの先生のような人材バンクや、学校の先生のOBにまとめて依頼して人を集めるということではできないか、という意見や、大学の学生に依頼することも考えられ、学生を活かすことで学生にとってもいい経験になるのではないかとという意見があった。そのために、今ある地域のコミュニティや児童クラブを活用して先進的にやっているところもあるので、広く取り組むことができないかという意見があった。
- 親に対する支援については、就学段階ごとの支援の状況は認知されているが、次の段階に進むと支援が途切れてしまうという可能性があるため、情報提供をしっかり行ってほしいことと、いろいろな相談・支援窓口があるが、それが逆に足を運ぶのが煩わしい、声をあげにくいといったことになっているので、窓口の一本化やアウトリーチという形で声をあげてもらおうということが、親への支援の部分で大事なのではないかと。
- 財源については、例えばふるさと納税を活用するなどが考えられるのではないかと。

#### 〇Cグループ

- 子どもについては、学校などではケース会議などで気になるお子さんをキャッチできるが、その先につなげることが難しいということと、親の方は、何か問題があった時の対応を子どもナビゲーターを中心にされるとのことだが、現在一人しかいないということで、困っているところに届くのが難しいのではないかと。また、子どもナビゲーターの役割はとても重要であるが、ご家庭に入るには非常にスキルも必要であり、ボランティアでは難しいので、仕事として、中学校区くらいで高齢者の地域包括支援センターの子ども版のような形でやると、学校の先生からのサポートもできるだろうし、地域で子どもの育ちを見守ることができるのではないかと。
- また、そこから、子どもの居場所づくりや放課後子ども教室などの地域の力を引き出すということにつながるのではないかと。
- 今年先行的に子どもナビゲーターを配置したとのことなので、今後充実が図られればと思う。

#### 4. その他 アドバイザーからのまとめ

生活実態調査の中間報告について、ワーキング部会の方でも検討し、皆さんとこの結果を共有できたことは非常に大きなことだと思うので、ぜひじっくり読んでいただきたい。興味深い結果も出てきていて、例えば、無料の学習や体験活動の機会や子どもが利用できる居場所のニーズは、経済状況に関わらず要望されている方の割合が高いが、よく見ると、学習や体験活動の割合は高いが、居場所の割合は若干低い。居場所プラス何か

の提供があるところに親は行かせたいと思っているということを、この結果から感じさせられた。子育てについての悩みのところでも、「区分1」と「区分2」（資料No.1、2頁参照）で見えていくのももちろん大事だが、「区分2」の方でも、子どもの教育やしつけに自信が持てないとか、子どもに対して大声で叱ったりおもわず手をあげてしまうという方が一定程度おられるのが明らかになったということは、そのままにしておいてはいけないのではないかと思う。経済状況のところでは差も生じてはいるが、どちらを見ても四分の一くらいの方は、子育てに自信が持てないと思いながら子育てをしているということが明らかになっている。このような形で丁寧に見ていくと、長岡市で子育てをされている方の状況が見えてきて、生活という場面と密着させて何が起きているのかを見る貴重な資料になっている。

療育相談についても、非常に大事なワーキングをされていると思う。その中で、出前相談会が子育ての場で実施されることは、保護者にとって身近であり、わざわざ相談のために行く場所ではないところであることの良さがあると思うので、ぜひやっていただきたい。発達ではなく育ちくらいの方がいいのではないかと、というところで、柔らかい表現だと発達以外の育児相談が入ってくるのではという意見もあるが、それでもいいのではないかと。子育ての悩みは多岐にわたるため、それが発達に関するものなのか、保護者が判断できるかどうかはわからない。子どもがごはんを食べないという悩みも、発達段階によるものなのか、特性によるものなのか、発達障害のお子さんたちは視覚が過敏で食べられないこともあるため、そういう観点から考えていったときに、その切り口がどこであろうと、それを専門家の方が聞いて意味づけをしてあげることのプロセスは、子育ての中で非常に大事なことではないか。相談の機会を多様な形で用意していくのは、どちらのワーキングにも共通して大事なことである。

ニーズ調査については、子育て中の方はぜひ回答してみしてほしい。作る側と回答する側の観点が違う場合もあるので、気づいた事があれば意見していただいた方が、より良いアンケート作りに繋がると思う。

グループワークについて、どのグループでも共通項は子どもナビゲーターであり、ナビゲーターの役割は、家庭訪問までするのか、窓口の役割なのか、もう一度整理する必要がある。一人では捌ききれない情報が集まってきている状況なので、人を増やすのか、ナビゲーターの方の体制を強化するのかわからないが、現状のナビゲーターの方を孤立させない仕組み作りが大事である。役割をきちんと整理するのも、過度な負担につながらないことになる。今ナビゲーターが学校をまわって情報を集めてくださっているが、この後が非常に大事で、学校側は情報を提供してくださっているが、これをちゃんと消化していかなければ、ナビゲーターに言ってもしょうがないという仕組みになってしまう。そうならないために、どう動いていくかが大事である。子ども達や保護者の方と向き合っている方たちが困ったときに相談して、あの人に相談して良かったと思われるような仕組み作りをしていかないと、せっかく集まってきた情報が無駄になってしまう。非常に力のある方にナビゲーターをお願いできている状況なので、それをどう継続していくことができる

かと、お一人だけではなく複数でスキルアップしていけるような体制作りができればいいのではないか。

子ども食堂が増えてきているということで、いいことだと思うが、子ども食堂を利用したい人は、要望であってニーズではない。要望はあるが、その人達がニーズとして子ども食堂を必要としている状況にあるかというのは別軸である。これは皆さんがどう考えていくかであって、要望を拾っていくと、ニーズのある人は入ってくるからやっついこうところもあるし、ニーズに合わせた形で作っついこうと思えば、今と違う形を考えなければならない。どちらが正解ということはないが、最近では、本当に孤食で困っている人はどの程度来ているのかという声も聞こえてきている。要望とニーズは違うことを踏まえながらやっついけるといいのではないか。

## 5. 閉会

(出席委員の署名欄)

上記会議議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名をする。

長岡市子ども・子育て会議 委員長

⑩

10. 会議資料 別添のとおり